

公共汚水ます設置工事の手引き

令和8年8月

小平市環境部下水道課

はじめに

公共污水ますに関する工事を行うときは、あらかじめ小平市に申請を行い、承認を受けなければなりません。

本手引きでは、公共污水ますに関する工事を行う方に向けて、「手続き」、「公共污水ますの構造等に関する基準」、「施工における注意事項」など重要な内容を記載しています。

工事に当たっては、本手引きをよくご確認いただいた上で、必要な手続き等を行ってください。

目 次

1 公共污水ますに関する工事の概要	・・・P.1
2 手続き	・・・P.2～P.3
3 公共污水ますの構造等に関する基準	・・・P.4～P.8
4 施工における注意事項	・・・P.9～P.15
5 参考資料	・・・P.16～P.26
6 標準構造図等	・・・P.27～P.38

問合せ先

小平市 環境部 下水道課 設備維持担当

電話 :042-346-9560

FAX :042-341-9520

メール :gesuido@city.kodaira.lg.jp

1 公共汚水ますに関する工事の概要

1-1 公共汚水ますとは

公共汚水ますは、宅地から出る排水を下水道管に流すために設けられる施設であり、下水道管につながる取付管を点検、清掃するなどの維持管理を行う上で大切な役割を果たしているものです。

公共汚水ますと取付管は市が所有し、市が維持管理を行います。

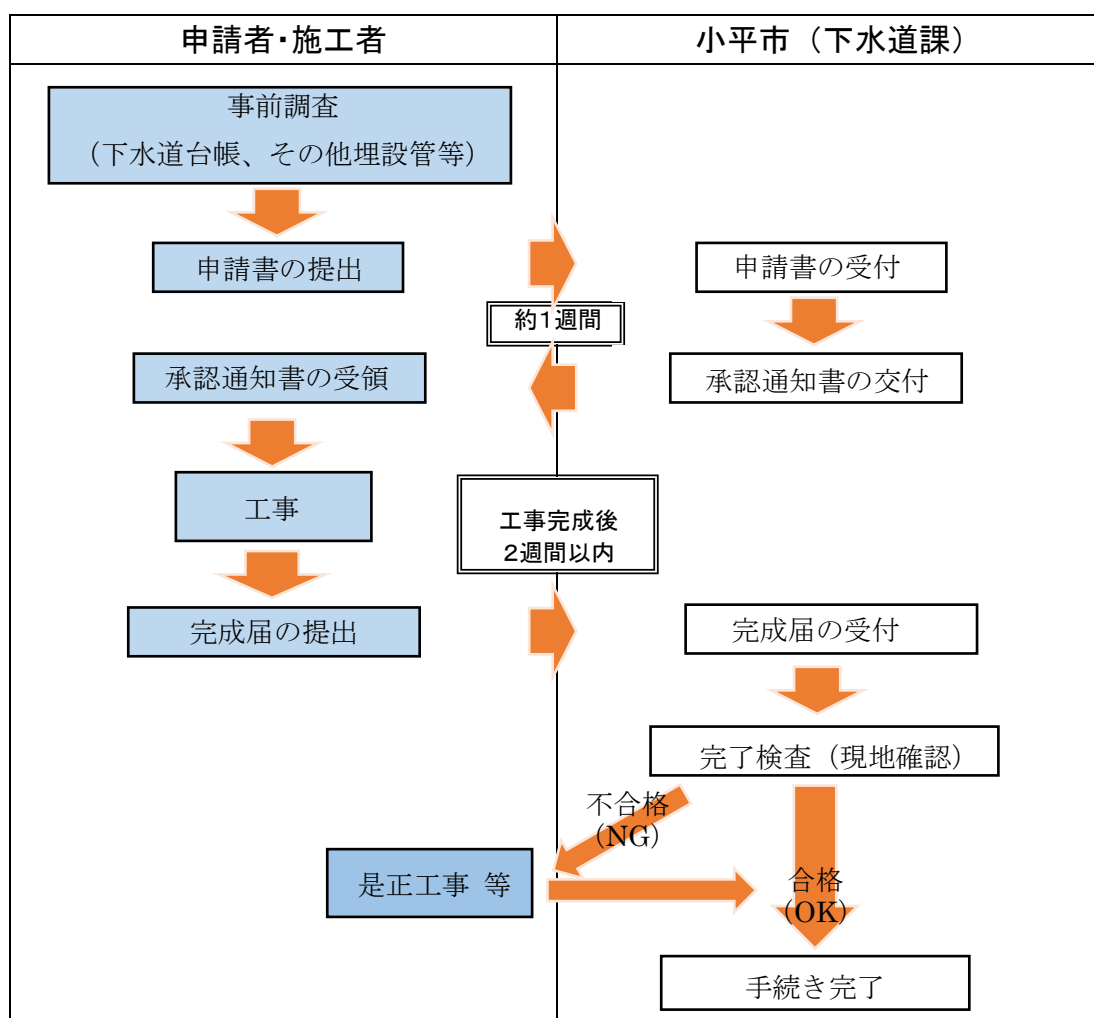
1-2 公共汚水ますの工事



公共汚水ますについて以下のような工事を行う場合、下水道課に申請を行い、工事前に承認を受けなければなりません。

- ・ 新設 … 新たに公共汚水ますを設置する
- ・ 改造 … 既存の公共汚水ますを新しい公共汚水ますに取替える
- ・ 移設 … 既存の公共汚水ますの位置を変更する
- ・ 撤去 … 既存の公共汚水ます及び取付管を撤去する

1-3 申請及び工事の流れ



2 手続き

2-1 申請書の提出

(1) 提出書類

	書類名	部数	縮尺	備考
1	公ます設置等 自費工事施工 承認申請書	2部 (正・副)		副本はコピーでも可 両面印刷とすること。 裏面の条件を確認すること。
2	案内図	2部	1/1500	目印となる施設や交差点からのルート図となるもの
3	平面図	2部	1/100	『5 参考資料(添付書類作成例)』を参照
4	断面図	2部	1/50	
5	構造図	2部		『6 標準構造図等』を参照
6	下水道台帳図	2部	1/500	申請宅地を赤線等で囲んで明示すること。
7	公図	1部	1/600	申請宅地を赤線等で囲んで明示すること。 ※新設の場合に必要
8	既存公ます 現況写真	1部		P26の既存公ます現況写真撮影要領を参照 ※改造の場合に必要

① 申請書様式の取得

- ・小平市ホームページから取得することができます。

[トップページ](#) > [くらし・手続き・税・防災](#) > [下水道](#) > [下水道工事業者申請書](#)
> [公ますの新設等](#) > [公ますの新設・改造・移設・撤去等\(自費工事\)](#)

② 申請書類の作成

『5 参考資料(申請書記入例)』を参考に行ってください。

(2) 提出先

下水道課窓口(小平市役所 本庁舎4階)

(3) 受付時間

8時30分から17時00分まで(土曜・日曜・祝祭日を除く。)

(4) 申請処理期間

施工承認通知書交付まで5日程度(土曜・日曜・祝祭日を除く。)

(5) 施工承認通知書の交付

下水道課窓口で、施工承認通知書、申請書類(副本)をお渡しします。



施工承認通知書を受領するまでは絶対に工事に着手しないでください。
(承認図と異なった施工をし、やり直しとなる事例が発生しています。)
あらかじめ余裕をもって申請を行うようにお願いします。

2-2 工事の施工



- ・承認を受けた図面等をよくご確認の上、工事を行ってください。
- ・4 施工における注意事項（P.9～）をよくご確認ください。
- ・現場状況が申請内容と異なる場合、下水道課へ協議してください。
協議なく施工した場合、再施工等を指示する場合があります。

2-3 完成届の提出



工事が完了しましたら、速やかに完成届をご提出ください。
(完成後、2週間以内)

(1) 提出書類

	書類名	部数	縮尺	備考
1	自費公ます設置工事 完成届兼検査願	1部		
2	案内図	2部	1/1500	目印となる施設や交差点からのルート図となるもの。
3	下水道台帳図	1部	1/500	申請宅地を赤線等で囲んで明示すること。
4	完成図(平面図)	2部	1/100	現場で測定した数値を記載すること。
5	完成図(断面図)	2部	1/50	
6	工事写真帳	1部		撮影項目は、「4-4 工事写真の撮影について」を参照

(2) 提出先

下水道課窓口(小平市役所 本庁舎4階)

(3) 受付時間

8時30分から17時00分まで(土曜・日曜・祝祭日を除く。)

2-4 完了検査の実施



完成届の受付後、現場状況により期間を要する場合がありますが、下水道課職員で現地完了検査を行います。申請者及び施工者の立会は不要です。

・検査後の対応について

是正が必要な場合に連絡します

市から施工者に不合格の連絡を行い、是正内容の指示を行います。

指示を受けた場合、速やかに是正を行い、下水道課へ報告してください。

⇒ 再度現地確認を行い、合格となれば手続きは完了です。

3 公共汚水ますの構造等に関する基準



公ます、取付管等に関する基準などについて、以下にまとめてあります。
計画の際にはよくご確認いただき、ご不明な点については下水道課までお問合せください。

3-1 公ます

(1) 公ますの種類

- ・原則として、L形用小口径ますまたは宅内小口径ますとする。

公ます設置工事において L 形ブロックの撤去復旧を行う場合は以下の方法で L 形ブロックを復旧すること。

(必ず詳細な施工方法について下水道課と協議すること)

両サイドの既存のL形ブロックと基礎コンクリートを撤去し、連続した一体の現場打ちコンクリートを新設する。(P.33～P.35参照)

(2) 公ますの設置位置

- ・ L 形用小口径ますの場合

道路境界線※1に沿って設置すること。

※1 道路境界線

道路は、公道、私道を含み、道路境界線とは境界が確定している場合にはその境界線、境界が確定していない場合には境界が想定される場所を境界線とする。

なお、当該道路が幅員 4m未満で、建築基準法第 42 条第 2 項の道路の場合は、当該道路の中心から 2mの線を境界線とみなす等、同項により定められた境界線とする。

- ・ 宅内ますの場合

宅内の道路境界線からますの中心まで 0.5m以内の箇所に設置すること。



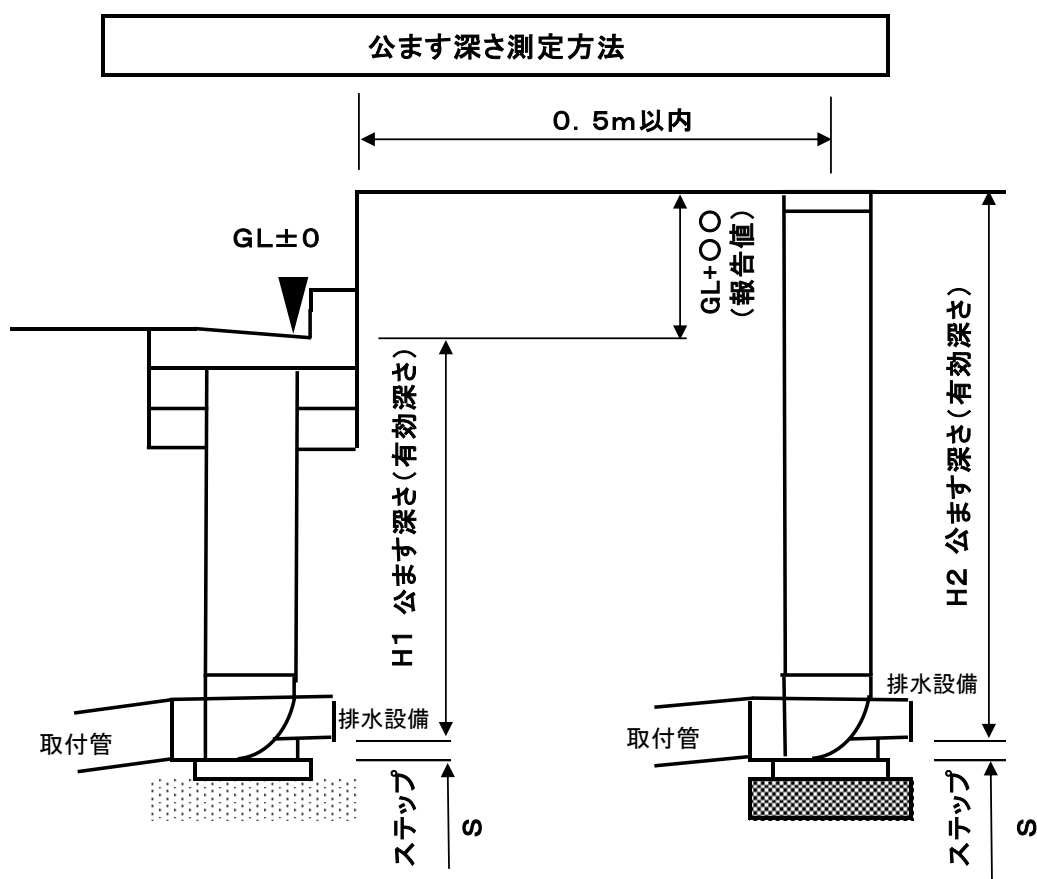
- ・既存宅内公ますを改造する場合も既存公ますの位置にかかわらず 0.5m以内に設置すること。
- ・駐車車両の下や塀の内側など、維持管理の支障となる位置への設置は避けること。

(3) 公ますの深さ

1.0m以上とすること。

なお、以下の点に留意すること。

- ・公ますの深さの測定箇所は、以下の「公ます深さ測定方法」を参照すること。
- ・1.0m以上を確保できない場合は、事前に下水道課と協議、調査を行うこと。
- ・改造の場合は、申請時にスタッフ等で既設公ますの道路境界からの位置、深さ、道路との高低差の分かる写真を提出すること。万が一、建物解体工事の際に撤去されてしまった場合は、事前に下水道課と協議、調査を行うこと。



L形用小口径ますの深さ H1

- ・L形水みち部または道路路肩部 (GL±0) から排水設備の管底までの数値。
- ・L形水みち部または道路路肩部 (GL±0) と宅内地盤高の高低差を表示する。

公ます深さ H2

- ・ます天端から排水設備の管底までの数値
 - ・ます天端とL形水みち部または道路路肩部 (GL±0) の高低差を表示する。
- (例) GL+0.30 ます深さH=1.30

注意点

※取付管の管底までの深さではなく、排水設備の管底までの有効深さを測定すること。

(4) 公ますの規格及び構造

種類	ます 口径	取付管 口径	宅内側 口径	ます 深さ	(参考) 標準敷地面積
L 形 用	200	150	100	1.5m以下	一般住宅(200 m ² 未満)
			150		600 m ² 未満
		200	200		1500 m ² 未満
小 口 径	200	150	100	1.5m以下	一般住宅(200 m ² 未満)
			150		600 m ² 未満
		200	200		1500 m ² 未満
	300	150	150	2.0m以下	600 m ² 未満
		200	200		1500 m ² 未満
		250	250		
0号	750	300 以下	300 以下	2.5m以下	
1号	900	400 以下	400 以下	3.0m以下	

(5) 公ますの構造に関する注意事項 重要



公ますの構造について、誤りやすい項目を以下に記載しています。
計画の際によくご確認ください。

① L 形用縁塊基礎厚さ

用途	要件	基礎厚さ	基礎構成
戸建て住宅 等	複数台の車両の出 入りが無い箇所	20cm	縁塊用底版(二次製品) 10cm + 砕石 10cm
集合住宅、店舗 等	複数台の車両の出 入りが有る箇所	40cm	基礎コン 20cm+ 砕石 20cm

② L 形用縁塊のコーピン

コーピン	名称	要件
10cm	一般部	車両等の乗入れ箇所以外に設置
5cm	切下げ部	車両等の乗入れ箇所等の切下げ部に設置



上記コーピン以外の材料を使用する場合は、必ず事前に下水道課
とご協議ください。

③ L 形用縁塊内部の仕上げ

区域	仕上げ	内蓋の有無
合流区域	縁塊内部の水が立上り管内に円滑に流入するよう、 モルタル等で縁塊内部をすり鉢状に仕上げる。	無
分流区域	縁塊内部の水が地中に浸透するよう、立上り管の周 囲に隙間を設けて砂を充填する。	有

④ 公ます蓋のデザイン、種類



ますの種類（L 形、円形）及び口径によりデザインが異なります。
参考資料6「標準構造図等」をよくご確認ください。

宅内蓋の種類		適用	備考
塩ビ蓋	T-2	宅地内	一般住宅の車庫等
防護蓋※3	T-8	車両通行が頻繁にあり、コンクリート、アスファルトを敷設する場所	小平市下水道課が認めた場合に限る
	T-14	工場や倉庫等、大型車両の通行が見込まれる場所	総重量 14 トンを超える大型車両が通行しない場所
	T-25	工場や倉庫等、大型車両の通行が見込まれる場所	総重量 14 トンを超える大型車両が通行する見込みがある場所

※3 基礎碎石を必ず敷設すること。（『6 標準構造図等（防護蓋標準施工図）』を参照）

3-2 取付管

(1) 材質

VU 管（硬質塩化ビニル管）とする。

(2) 管径

φ 150を標準とする。

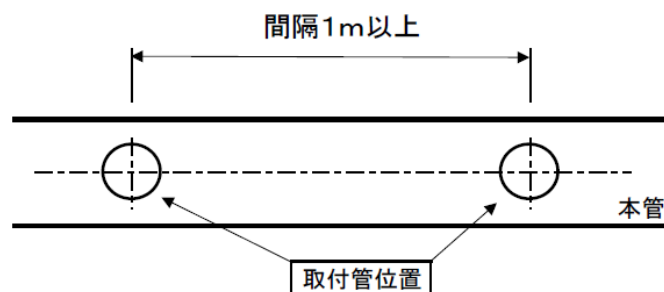
☆3-1-(4) 公ますの規格及び構造参照

(3) 勾配

1.0%以上とする

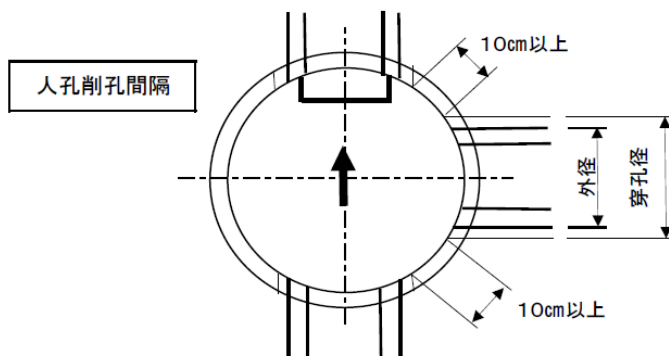
(4) 下水道管への接続

- ① 本管に対して直角かつ直線的に布設する。
- ② 本管の取付部は、本管に対して 90 度又は 60 度とする。
- ③ 本管に対する取付位置は、本管の中心線から上方に取付ける。
- ④ 本管に対する取付は、支管に接合剤を塗布し、焼きなまし番線等で固定する。
- ⑤ 取付管の間隔は、1m以上離れた位置とする。（既設取付管も含む。）
- ⑥ 人孔からの離隔は、人孔外壁から 1m以上確保すること。



(5) 人孔への接続

- ① 最上流部の取付管は、人孔接続を基本とする。
- ② 人孔への接続位置は管底接続とし、取付管側にもインバートを設ける。
- ③ 人孔へ接続する他の管の削孔部から内法で 10cm 以上の離隔を確保する。



(6) 取付管の構造物下越し

取付管が街きよ等の構造物を下越しする場合には、さや管 (VU) を使用した一部推進工法で施工すること。(先掘り禁止)



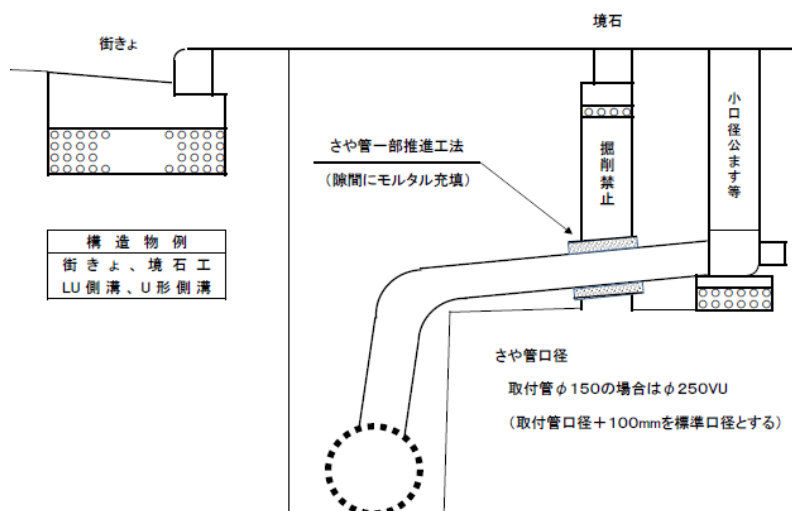
取付管の構造物下越し方法

宅地内に公共ますを設置する際、取付管が構造物を下越しする場合は、塩ビ製さや管を使用した一部推進工法で施工すること。



構造物を下越しする場合、さや管挿入状況等の写真を必ず撮ること。

取付管の構造物下越し標準施工例



4 施工における注意事項

4-1 掘削・埋戻しについて

- ・ 取付管布設標準掘削幅（取付管径 $\Phi 150 \sim 200\text{mm}$ の場合）

掘削深さ H(m)	掘削幅 W(m)
$H \leq 1.5\text{m}$	0.70m以上
$H > 1.5\text{m}$	0.80m以上



不適切な掘削の禁止

L 形側溝や境石等の構造物下を横から掘削する「えぐり掘り（ためき掘り等）」は禁止しています。

「えぐり掘り」は陥没の原因となります。宅地内であっても不適切な施工ですので、絶対に行わないでください。

不適切な施工が確認された場合、再施工等を指示する場合があります。

- ・ 埋戻し方法

※公道、私道に関わらず全箇所が対象

部位	埋戻し・転圧方法
取付管周辺部	管路上面 10cm部分をしゃ断層用砂、埋戻し用砂又は改良土（第一種改良土及び第二種改良土）で埋戻し、十分締固めを行う。
道路部（路盤下）	しゃ断層用砂、埋戻し用砂又は改良土（第一種改良土及び第二種改良土）で埋戻し、20cm毎に転圧を行う。



埋戻しに際しては、適当な機械又は人力にて入念に締固めを行い、沈下しないように施工を行ってください。

埋戻し転圧状況と転圧完了の写真を、転圧ピッチ毎に必ず撮影し、提出すること。

撮影方法については、「4-4 工事写真の撮影について」を参照し詳細をご確認ください。

4-2 安全管理(山留工の実施)について

山留工の実施

労働安全衛生法に基づき、労働災害防止のため取付管掘削等において、掘削深さ 1.5m以上の箇所では必ず隙間なく連続した山留工を実施し安全管理を徹底すること。

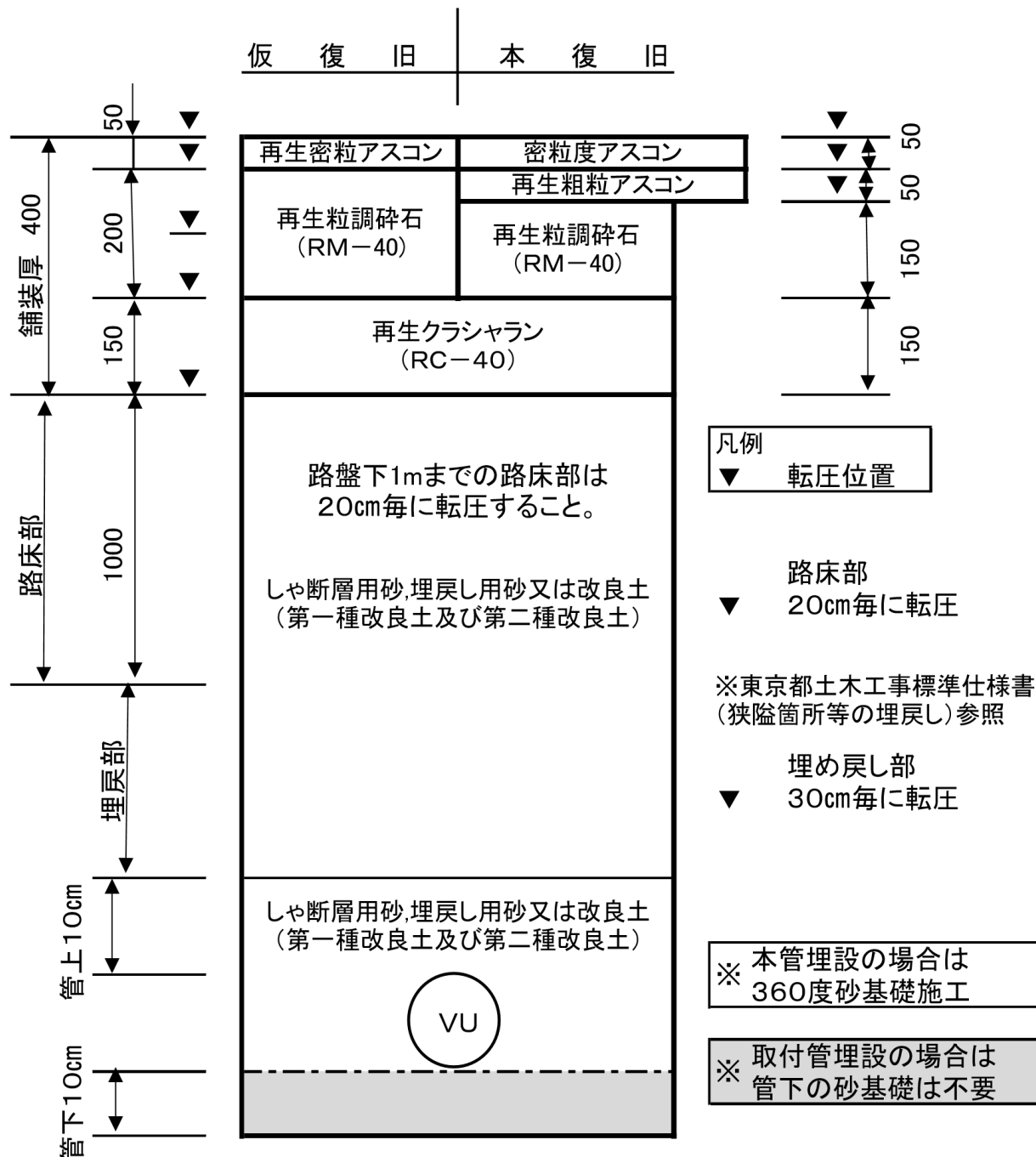
なお、掘削深さ 1.5m未満の箇所においても現場状況に応じて山留工を実施すること。



全国では、毎年、下水道工事での土砂崩落による死亡事故が報告されています。安全対策の推進、安全管理の徹底をお願いします。

埋め戻し転圧要領

(例・車道舗装40型)



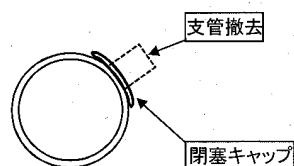
4-3 公ます及び取付管の撤去について

公ますの撤去においては、下水本管との接続部(支管部)から取付管を全て撤去します。下水本管の閉塞方法は、以下のとおりです。



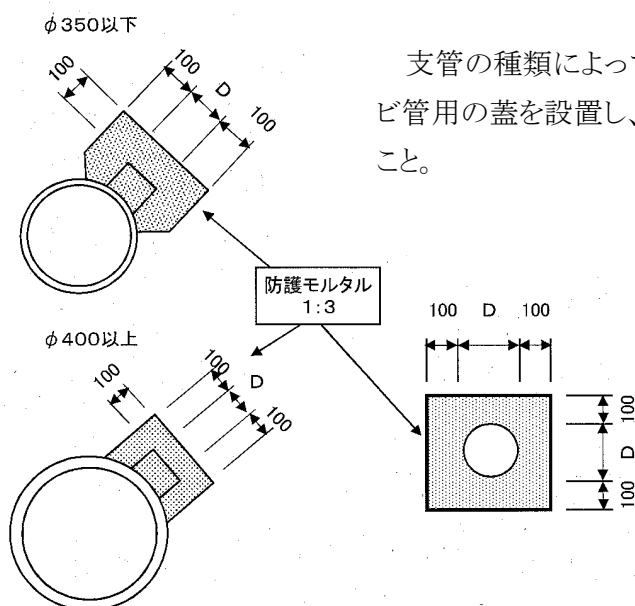
撤去工事の際は、必ず本管閉塞状況の写真を記録すること

1 下水本管が鉄筋コンクリート管(HP)の場合



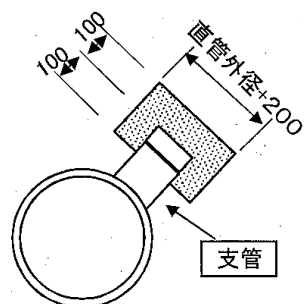
下水本管から支管を外し、閉塞キャップにて穿孔穴を閉塞し、アンカーボルト又は焼きなまし番線で固定すること。

やむを得ない理由で支管が外せない場合



支管の種類によって、陶管用キャップ又は塩ビ管用の蓋を設置し、防護モルタルを施工すること。

2 下水本管が塩ビ管(VU)の場合



既設支管が外れないため、直管を15cm以上の位置で切断し、塩ビ管用の蓋を設置し、防護モルタルを施工すること。



街きょやL形を下越しする取付管の撤去をご計画の際は、下水道課と必ず事前協議を行い施工方法を決定してください。

4-4 工事写真の撮影について



写真の撮り忘れ等により、施工状況が確認できない場合、確認のための再掘削等を指示する場合がありますので、ご注意ください。

● 新設工事

①: 特に重要な写真

工種	種別	撮影項目	チェック
1 全景	施工前	施工箇所の全景	☐
	施工後	施工箇所の全景	☐
2 掘削工	状況	掘削状況 ★掘削深さが 1.5mを超える場合には、 山留工を実施すること。	☐
	完了	掘削完了、本管土被り及び管径確認	☐
3 本管削孔工 ①	状況	削孔状況	☐
	完了	削孔完了	☐
4 支管取付工 ①	状況	接合剤塗布状況、支管部固定状況 ★支管部は、焼なまし番線、本管径によりアンカーボルト等で補助固定すること	☐
	完了	支管取付完了	☐
5 取付管布設工	状況	布設状況	☐
	完了	布設完了	☐
6 埋め戻し工 ①	状況	転圧状況 ★しゃ断層用砂、埋戻し用砂又は改良土(第一種改良土及び第二種改良土)で埋戻しすること。 ★路盤下は 20cm毎に転圧すること。	☐
	完了	転圧完了	☐
7 ます床付工	状況	転圧状況	☐
	完了	床付完了、地盤からの深さ確認	☐
8 ます基礎工	状況	施工状況(基礎碎石等)	☐
	完了	施工完了、基礎厚さ確認	☐
9 ます据付工	状況	底版、ます設置状況	☐
	完了	施工完了	☐
10 立上り管設置工	状況	立上り管設置状況	☐
	完了	施工完了 ★宅内ますは蓋設置完了写真も撮影	☐
11 L 形縁塊基礎工 ①	状況	施工状況(碎石、コンクリート底版等)	☐
	完了	施工完了、基礎構造及び厚さ確認	☐
12 L 形縁塊工 ①	状況	縁塊据付、内部仕上げ状況	☐
	完了	施工完了 ★ます蓋デザイン及びます内部仕上げの写真撮影	☐

● 改造工事

❗ : 特に重要な写真

工種	種別	撮影項目	チェック
1 全景	施工前	施工箇所の全景 ★スタッフ等で既設公ますの道路境界からの位置、深さ等を計測すること。	☐
	施工後	施工箇所の全景	☐
2 掘削工	状況	掘削状況 ★掘削深さが 1.5mを超える場合には、山留工を実施すること	☐
	完了	掘削完了	☐
3 取付管布設工 ❗	状況	既設管状況、既設管との接続状況、取付管布設状況 ★陶管に塩ビ管を接続する場合、変換ソケット使用、モルタル巻き施工	☐
	完了	布設完了 ★既設取付管接続箇所からますまで映るように撮影すること。(複数枚に分割してもよい)	☐
4 ます床付工	状況	転圧状況	☐
	完了	床付完了、地盤からの深さ確認	☐
5 ます基礎工	状況	施工状況(基礎碎石等)	☐
	完了	施工完了、基礎厚さ確認	☐
6 ます据付工	状況	底版、ます設置状況	☐
	完了	施工完了	☐
7 立上り管設置工	状況	立上り管設置状況	☐
	完了	施工完了 ★宅内ますは蓋設置完了写真も撮影	☐
8 L 形縁塊基礎工 ❗	状況	施工状況(碎石、コンクリート底版等)	☐
	完了	施工完了、基礎構造及び厚さ確認	☐
9 L 形縁塊工 ❗	状況	縁塊据付、内部仕上げ状況	☐
	完了	施工完了 ★ます蓋デザイン及びます内部仕上げの完了写真撮影	☐

● 撤去工事

ⓘ : 特に重要な写真

工種	種別	撮影項目	チェック
1 全景	施工前	施工箇所の全景	☐
	施工後	施工箇所の全景	☐
2 掘削工	状況	掘削状況 ★掘削深さが 1.5mを超える場合には、 <u>山留工を実施すること</u>	☐
	完了	掘削完了、本管土被り及び管径確認	☐
3 取付管撤去工	状況	撤去状況	☐
	完了	撤去完了	☐
4 支管撤去、 本管閉塞工 ⓘ	状況	撤去状況、接合剤塗布状況、閉塞版固定状況 ★焼なまし番線、本管径によりアンカー <u>ボルト等で固定すること</u>	☐
	完了	本管閉塞完了	☐
5 埋め戻し工 ⓘ	状況	転圧状況 ★しゃ断層用砂、埋戻し用砂又は改良土(第一種改良土及び第二種改良土)で埋戻しすること。 ★路盤下は 20cm毎に転圧すること。	☐
	完了	転圧完了	☐
6 まず撤去工	状況	撤去状況	☐
	完了	撤去完了	☐

5 参考資料

- ・申請書記入例
- ・添付書類作成例(案内図、公図写し、下水道台帳写し、図面)
- ・申請書鑑、完成届鑑
- ・既存公ます現況写真撮影要領

申請書記入例

別記様式第2号（第6条関係）

（表）

公ます設置等自費工事施工承認申請書

〇〇年 〇月 〇〇日

小平市長 殿

申請者

住 所 〇〇市〇〇町〇丁目〇〇番地

〇〇〇〇株式会社

氏 名 代表取締役 〇〇〇〇

電 話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

私は、裏面の設置等条件を承諾の上、下記のとおり公ますの設置等工事を行いたいので、当該工事の施工の承認を申請します。

施 工 種 別	☒ 新設 ☐ 撤去 ☐ 移設 ☐ 改造 ☐ 増設 ☐ その他					
施 工 理 由	☒ 宅地分譲 ☐ 宅地分割 ☐ 建物建替 ☐ 土地利用変更					
敷 地 面 積	110 m ² (坪)		建 物 戸 数	1 戸		
ま す の 種 類	☐ L形用 ☒ 小口径 ☐ 円形	内 径	200mm	ま す 深	1000mm	
施 工 場 所 (住居表示)	小平市 〇〇〇〇町 〇丁目 〇〇番 〇号 番地					
工 事 予 定 期 間	施工承認 日から 〇〇年 〇月 〇〇日まで					
提 出 書 類	・申請書（原本1部、写し1部） ・案内図（住宅地図写し等2部） ・平面図、断面図、構造図、下水道台帳写し（施工箇所を明示したもの）（各2部） ・公図（施工箇所を明示したもの）（写し1部）					
施 工 業 者 名	住 所 〇〇市〇〇〇〇〇〇		担 当 者	氏 名 〇〇〇〇		
	名 称 〇〇〇〇株式会社			電 話 番 号 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇		
	代 表 者 氏 名 〇〇〇〇					
	電 話 番 号 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇					

- ★ 該当する項目のチェックボックスを塗りつぶす。
- ★ 太字の箇所を、必ず記入する。

設 置（新 設）条 件

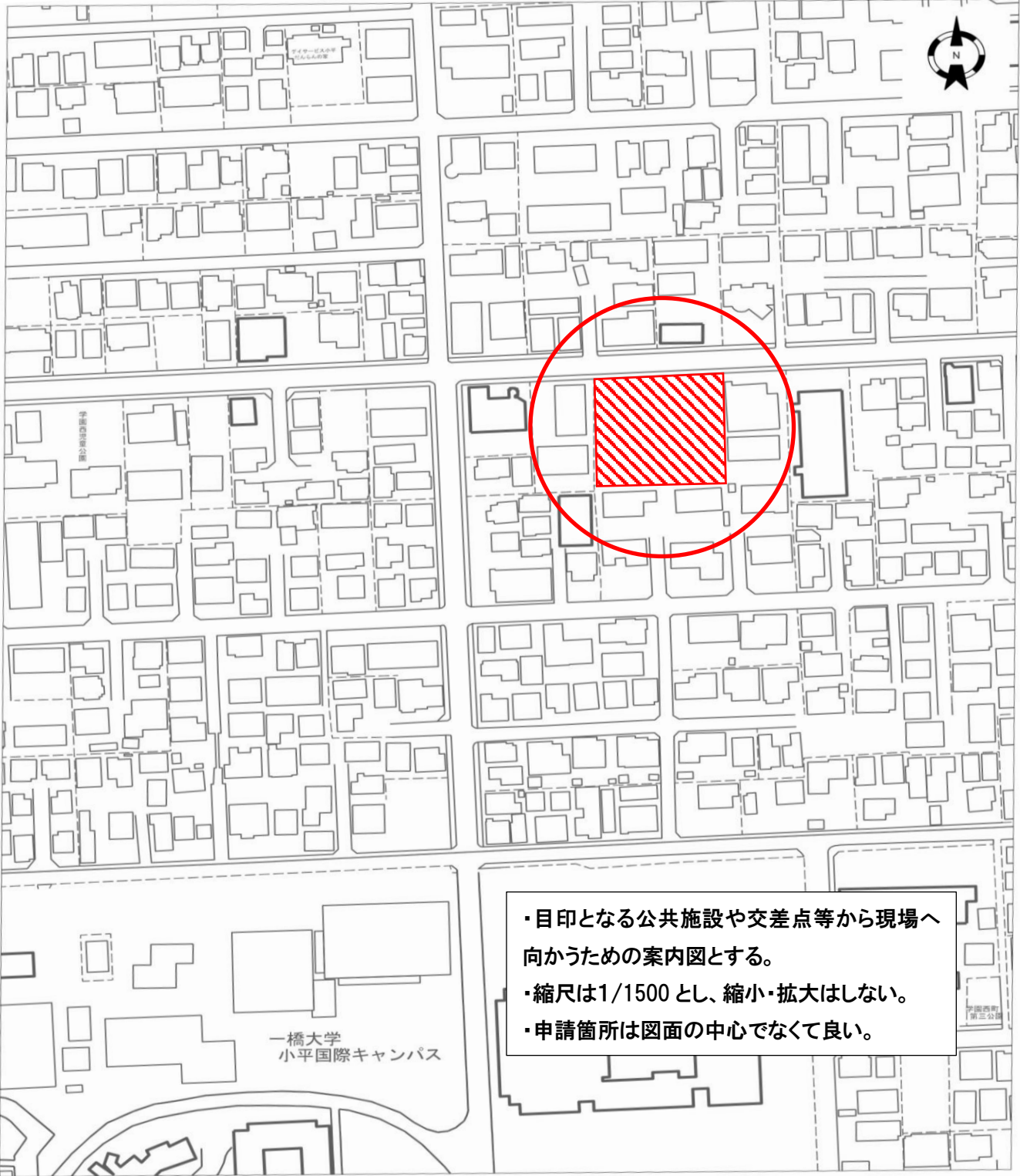
- 1 設置した公ますは、市の検査完了後、市に帰属すること及び土地を無償占用すること。
- 2 公ます設置及び維持管理のため土地を掘削すること。
- 3 公ます等(L形用ます、取付管)が私有地(私道等)を占用する場合は、当該土地所有者が設置条件及び土地の無償占用について、承諾していること。
- 4 公ます等の上部及び周囲には、維持管理上支障となる建物及び工作物を設置しないこと。
- 5 公ますの設置後、位置、構造等は、将来にわたり変更しないこと。ただし、やむを得ない理由により、公ますの移設又は撤去等、現況を変更しようとするときは、事前に市と協議し、変更に要する費用は、自費負担で行うこと。
- 6 公ます等の設置又は設置後の維持管理につき、第三者から異議の申立て又は権利等の主張があった場合は、土地所有者の責任において解決すること。
- 7 土地所有者が変更した場合、新所有者に対し前記事項について責任を持って継承すること。

撤 去 等 条 件

- 1 公ますを撤去、移転等する場合は、土地所有者の了解を得ておくこと。
- 2 第三者からの異議の申立て又は権利等の主張があった場合は、土地所有者の責任において解決すること。

案内図例

縮尺 1/1500

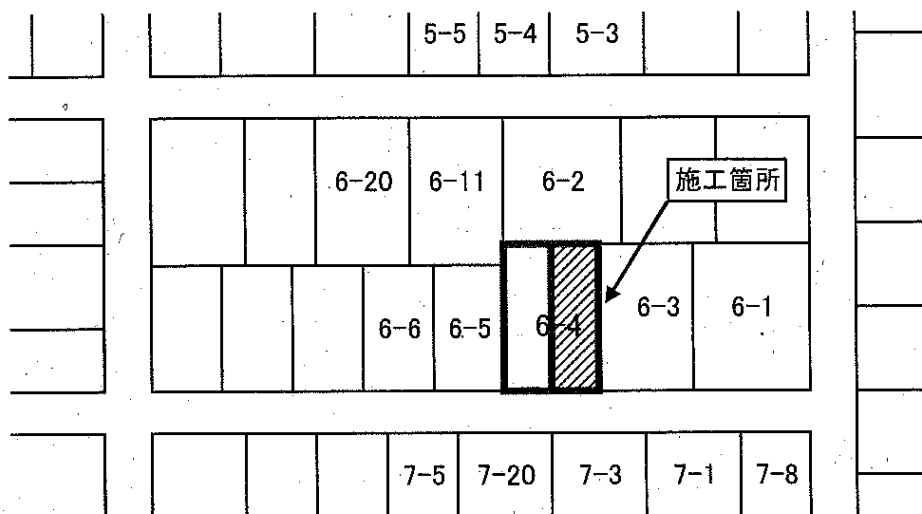


- ・目印となる公共施設や交差点等から現場へ向かうための案内図とする。
- ・縮尺は1/1500とし、縮小・拡大はしない。
- ・申請箇所は図面の中心でなくて良い。



1/1500

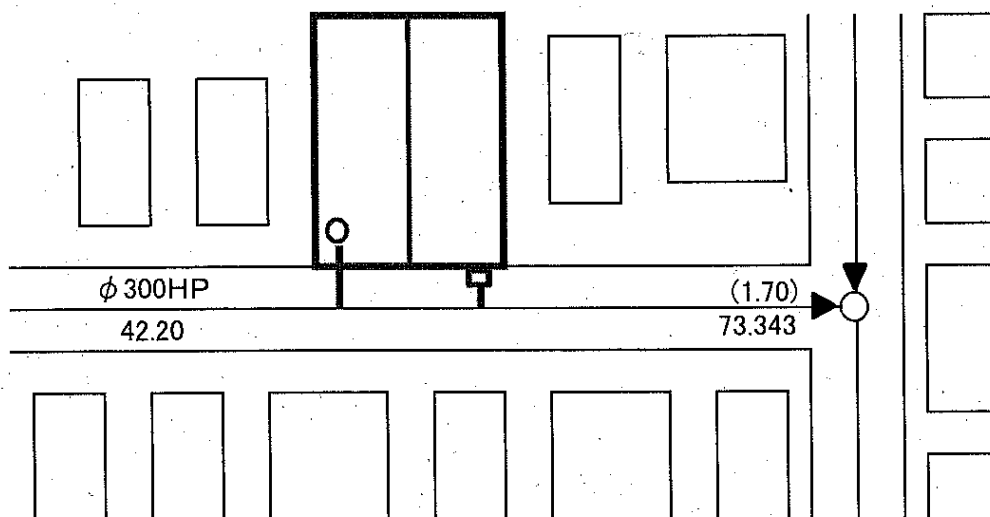
公図写し記入例



※ 申請箇所の宅地を赤線で囲い表示する。

※ 分筆が反映されていない場合は、該当箇所を赤色表示する

下水道台帳写し記入例



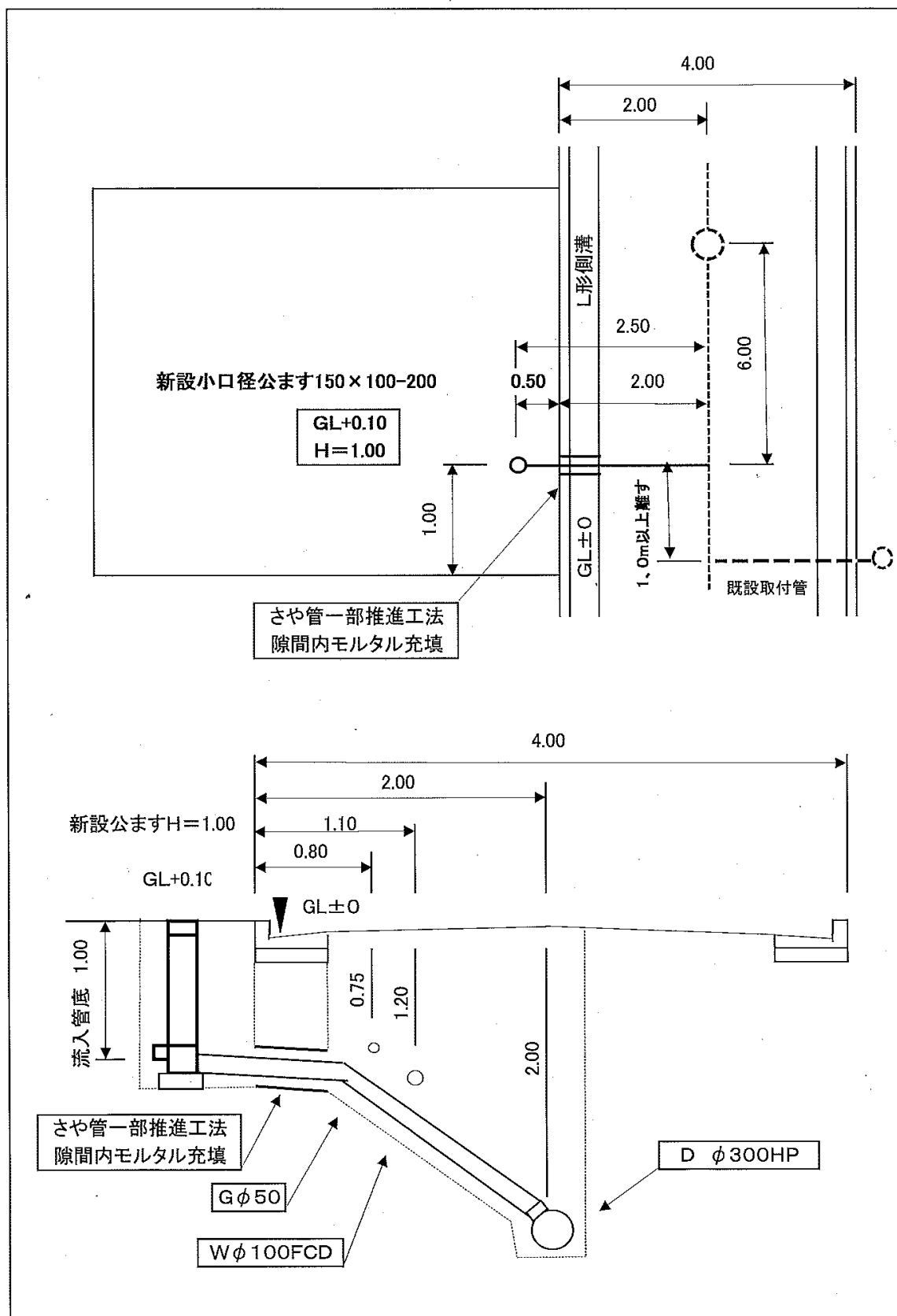
新設の場合

- ① 施工宅地の区画割りを赤色で囲い表示する。
- ② 施工する公ます位置をます及び取付管を赤色で表示する。

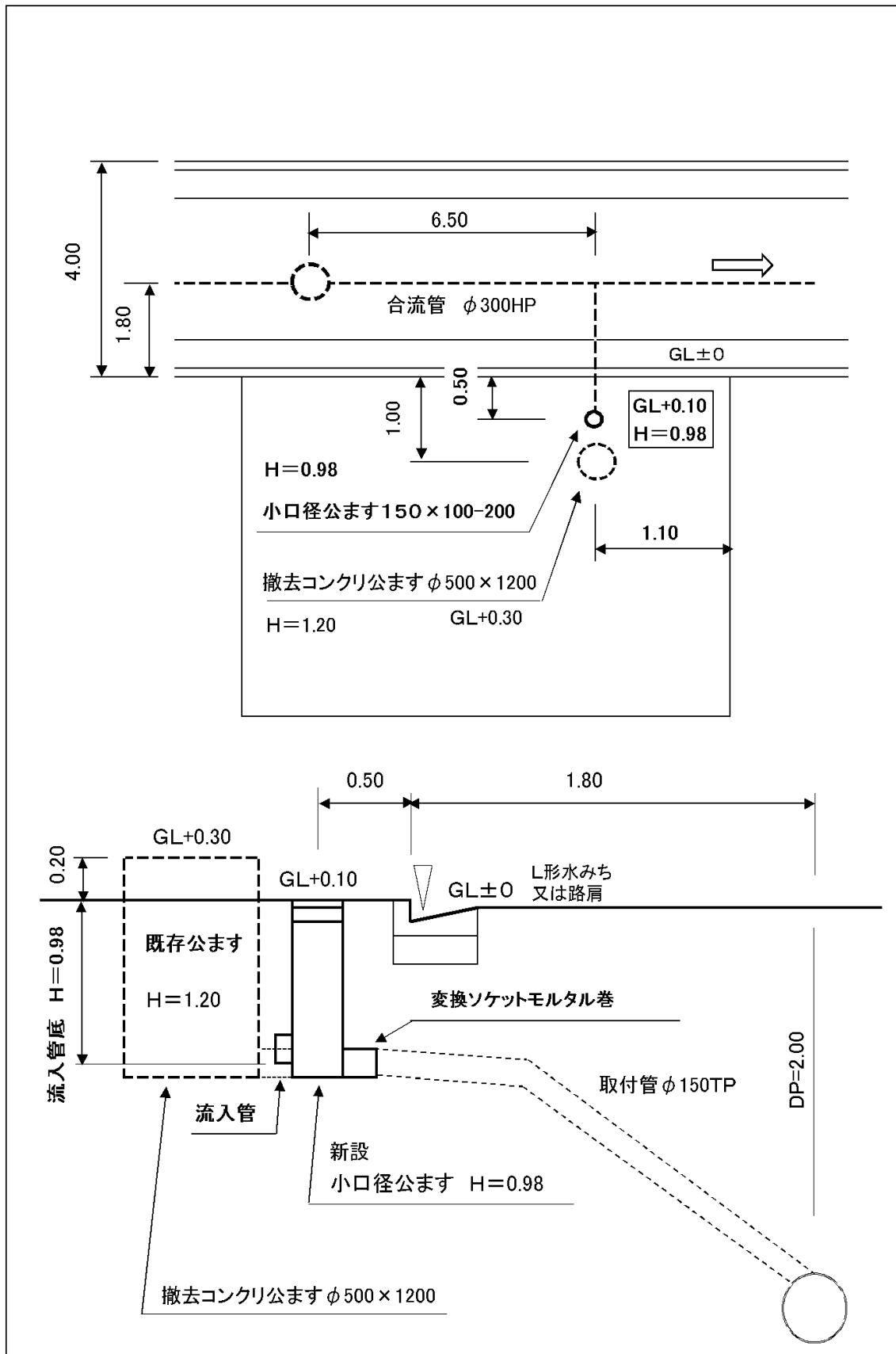
改造の場合

- ① 施工宅地の区画割りを赤色で囲い表示する。
- ② 施工する既設又は移設する公ます位置を赤色で表示する。

公ます新設工事 図面作成例



公ます改造工事 図面作成例



別記様式第2号（第6条関係）

☐合流区域

（表）

☐分流区域

公ます設置等自費工事施工承認申請書

年 月 日

小平市長 殿

申請者

住 所

氏 名

電 話

私は、裏面の設置等条件を承諾の上、下記のとおり公ますの設置等工事を行いたいので、当該工事の施工の承認を申請します。

施 工 種 別	☐ 新設 ☐ 撤去 ☐ 移設 ☐ 改造 ☐ 増設 ☐ その他					
施 工 理 由	☐ 宅地分譲 ☐ 宅地分割 ☐ 建物建替 ☐ 土地利用変更					
敷 地 面 積	m ² (坪)		建 物 戸 数	戸		
ま す の 種 類	☐ L形用 ☐ 小口径 ☐ 円形		内径	mm	ます深	mm
施 工 場 所 (住居表示)	小平市 町 丁目 番 号 番地					
工事予定期間	年 月 日から 年 月 日まで					
提 出 書 類	・申請書（原本1部、写し1部） ・案内図（住宅地図写し等2部） ・平面図、断面図、構造図、下水道台帳写し(施工箇所を明示したもの)（各2部） ・公図（施工箇所を明示したもの）（写し1部） ・改造の場合は、公図添付は省略して差し支えない。					
施 工 業 者 名	住所 名称 代表者氏名 電話番号		担当者	氏名 電話番号		

★ 太線の中だけ記入してください。

決 裁	課 長	係 長	担 当	受 付 印	
特 記 事 項					

(裏)

設 置 (新 設) 条 件

- 1 設置した公ますは、市の検査完了後、市に帰属すること及び土地を無償占有すること。
- 2 公ます設置及び維持管理のため土地を掘削すること。
- 3 公ます等（L形用ます、取付管）が私有地（私道等）を占有する場合は、当該土地所有者が設置条件及び土地の無償占有について、承諾していること。
- 4 公ます等の上部及び周囲には、維持管理上支障となる建物及び工作物を設置しないこと。
- 5 公ますの設置後、位置、構造等は、将来にわたり変更しないこと。ただし、やむを得ない理由により、公ますの移設又は撤去等、現況を変更しようとするときは、事前に市と協議し、変更に要する費用は、自費負担で行うこと。
- 6 公ます等の設置又は設置後の維持管理につき、第三者から異議の申立て又は権利等の主張があった場合は、土地所有者の責任において解決すること。
- 7 土地所有者が変更した場合、新所有者に対し前記事項について責任を持って継承すること。

撤 去 等 条 件

- 1 公ますを撤去、移転等する場合は、土地所有者の了解を得ておくこと。
- 2 第三者からの異議の申立て又は権利等の主張があった場合は、土地所有者の責任において解決すること。

自費公ます設置工事等完成届兼検査願

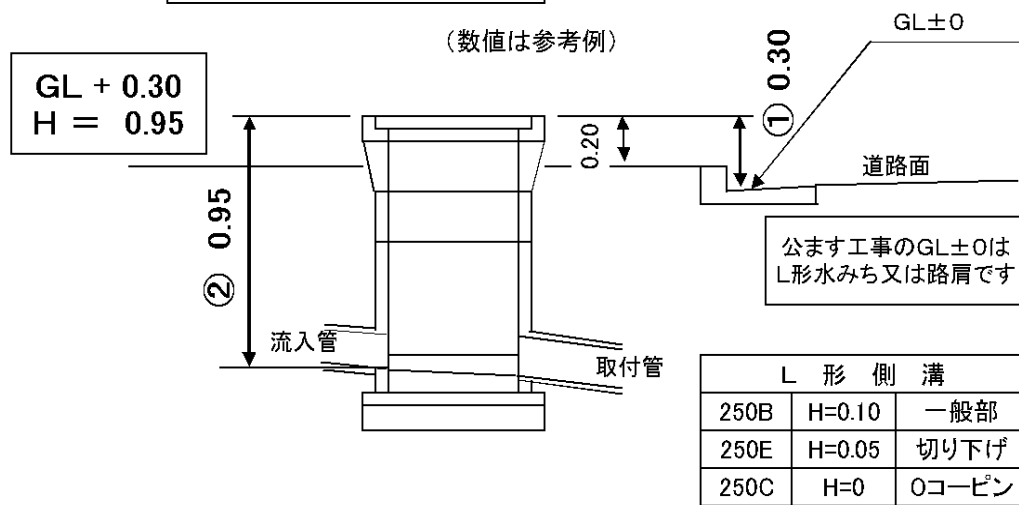
年 月 日 小 平 市 長 殿 申請者 住 所 氏 名 電 話 施工者 住 所 氏 名 下記のとおり完成したので、検査をお願いいたします。	
施 工 場 所	小平市 町 丁目 番地
承 認 年 月 日	年 月 日
承 認 番 号	第 一 号
排水設備確認番号	第 号
完 成 年 月 日	年 月 日
添 付 書 類	案内図 2 部、下水道台帳の写し 1 部、完成図 2 部、写真帳 1 部
備 考	

決 裁	課 長	係 長	担 当

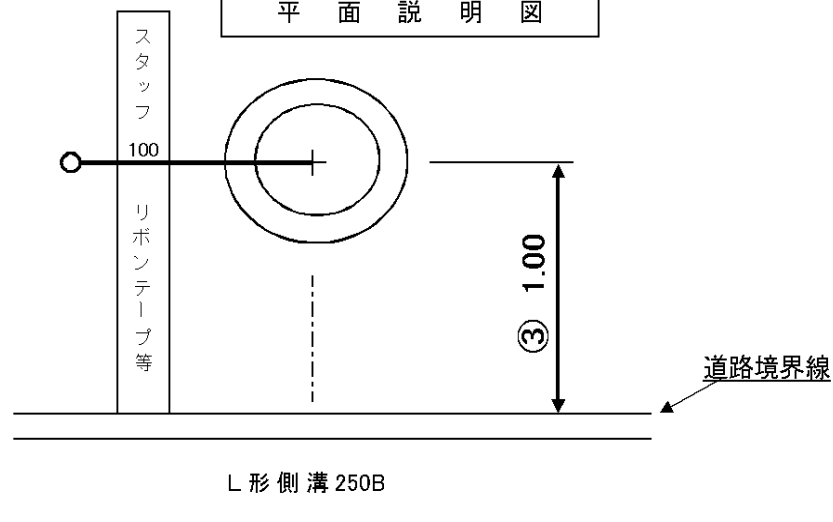
既存公ます現況写真撮影要領

- ① 道路との高低差(道路面と公ますとの段差を撮影する)
- ② 公ます深さ(排水設備の管底までの深さを撮影する)
- ③ 公ます位置(道路境界線から公ますまでの距離を撮影する)

断面説明図



平面説明図

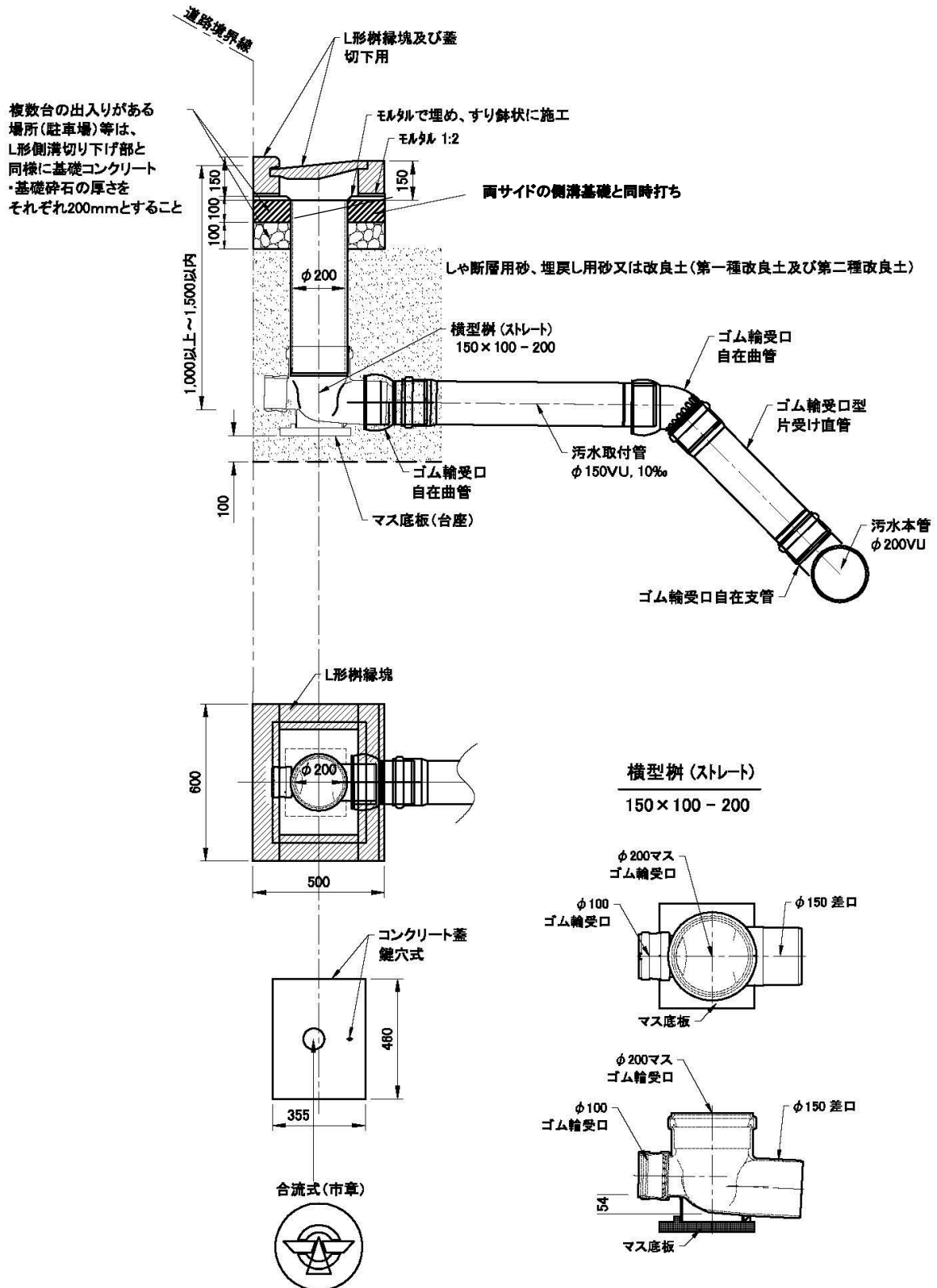


6 標準構造図等

- ・ L 形用公共汚水ます標準図(合流式、分流式、底部有孔)
- ・ 小口径公ます標準図(合流用、分流用)
- ・ 防護蓋標準施工図(合流区域用、分流区域用)
- ・ 公ます蓋の標準デザイン

L形用公共汚水ます標準図 合流式(小口径ます用)

A4 : S=1/20



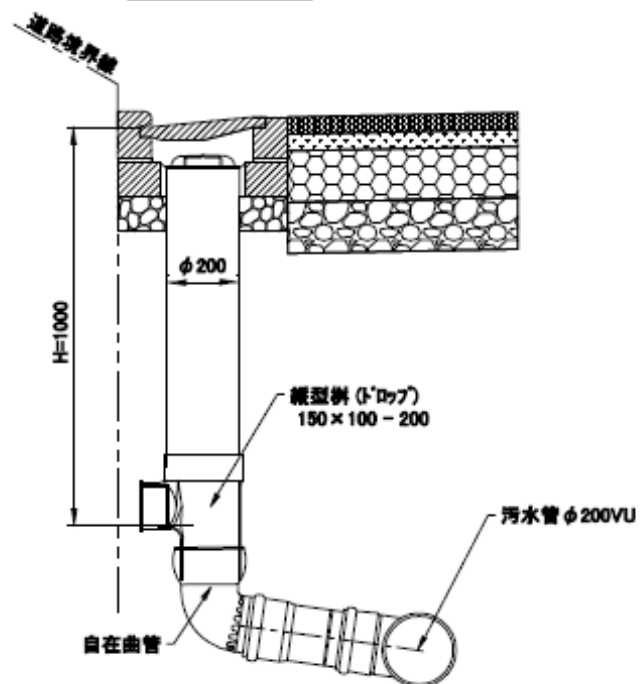
令和5年4月1日施工



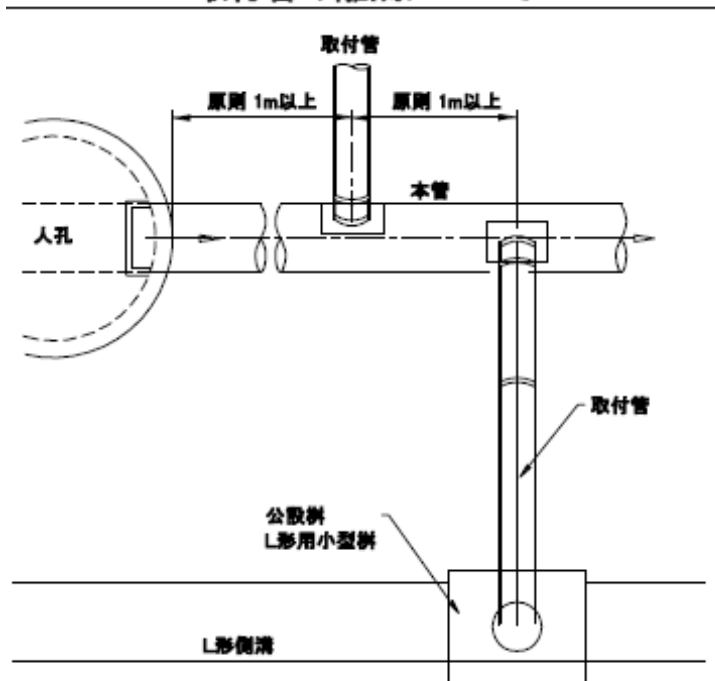
L形用公共污水ます（底部有孔）

A4 : S=1/20

縦型樹 (ドロップ)

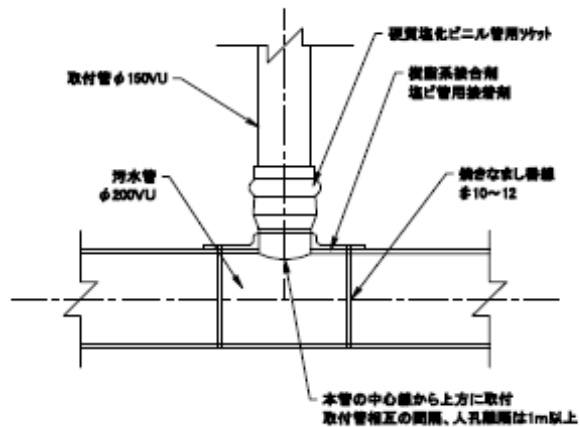


取付管の離隔について



硬質塩化ビニル管支管標準取付図

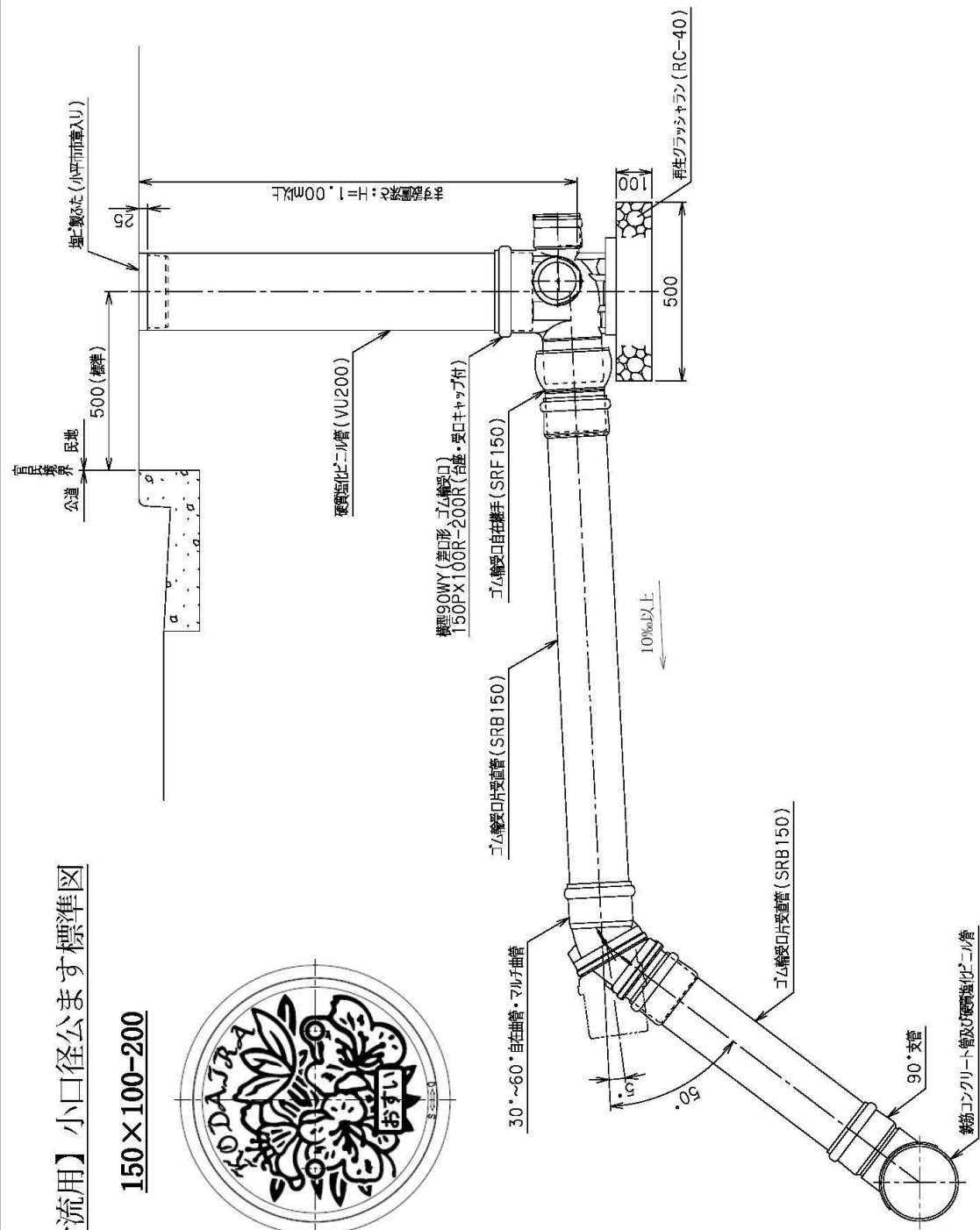
本管が硬質塩化ビニル管の場合(取付角度90°)
※接続箇所に応じて60°支管にて施工。



150 × 100-200



$150 \times 100 - 200$

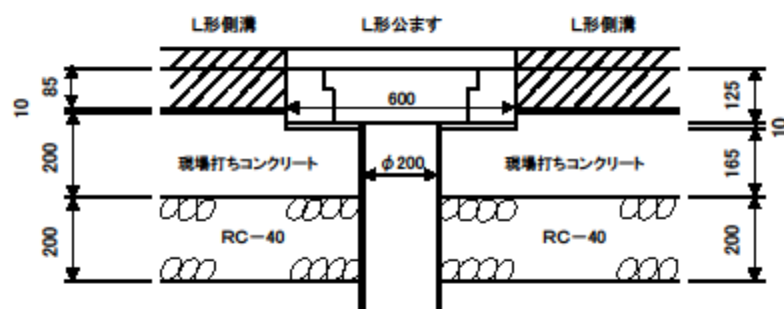


L 形側溝復旧標準施工図(合流区域用)

L 形用小口径ますを伴う場合の公ます設置要領

合流区域用

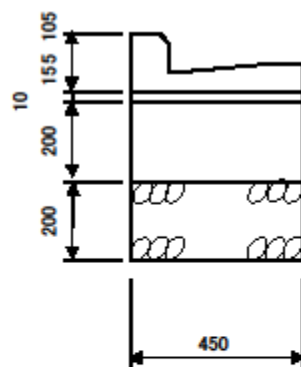
縦断面図



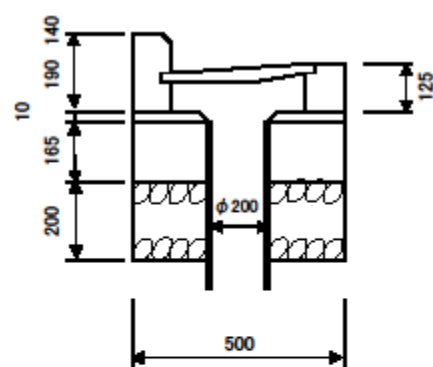
※ 公ます工事等でL形側溝を新設する場合は、隣接したL形側溝の基礎と連続した一体の現場打ちコンクリートにて施工すること。(上図縦断面図参照)

横断面図

L 型側溝



L 形公ます

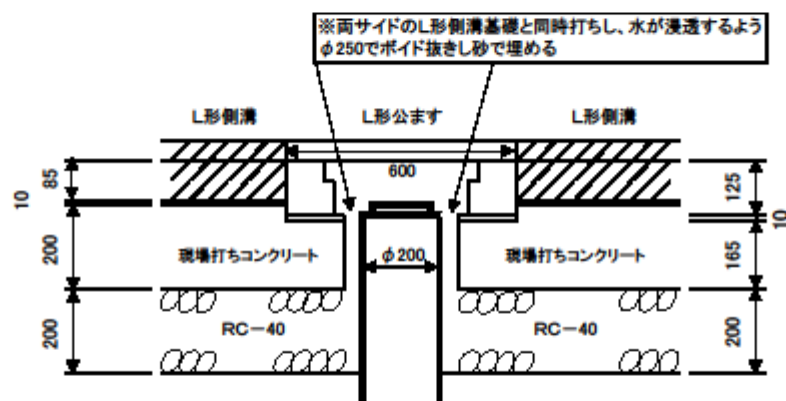


L 形側溝復旧標準施工図(分流区域用)

L 形側溝工事を伴う場合の公ます設置要領

分流区域用

縦断面図

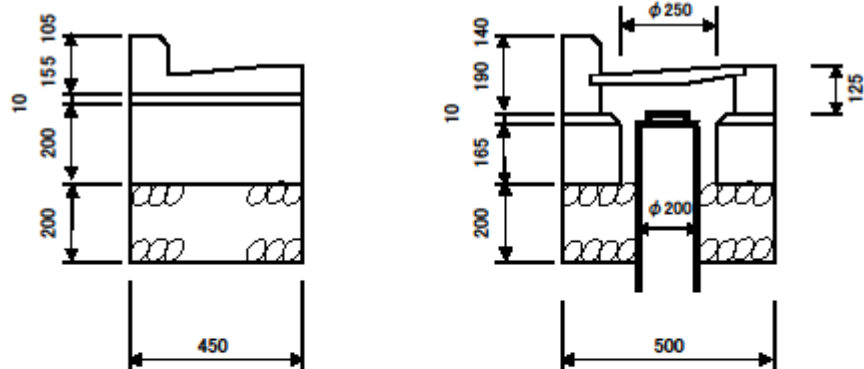


※ 公ます工事等でL形側溝を新設する場合は、隣接したL形側溝の基礎と連続した
一体の現場打ちコンクリートにて施工すること。(上図縦断面図参照)

横断面図

L 型側溝

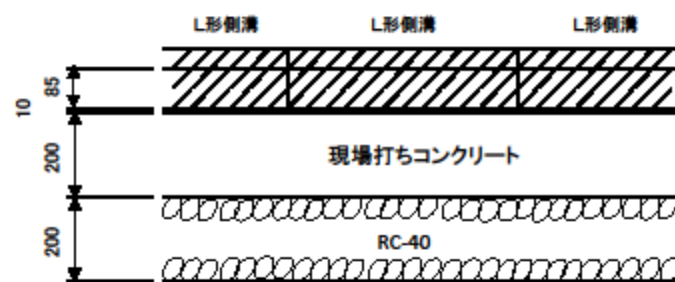
L 形公ます



L 形側溝復旧標準施工図

宅内小口径ますの新設工事で道路掘削を開削で施工した場合のL形ブロックの復旧方法について

縦断面図

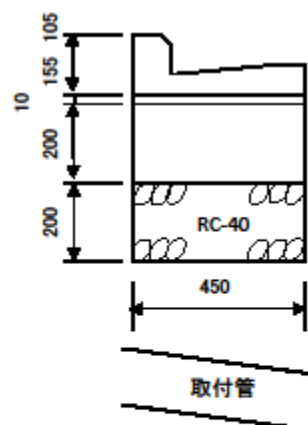


路盤下は20cm毎に転圧すること。

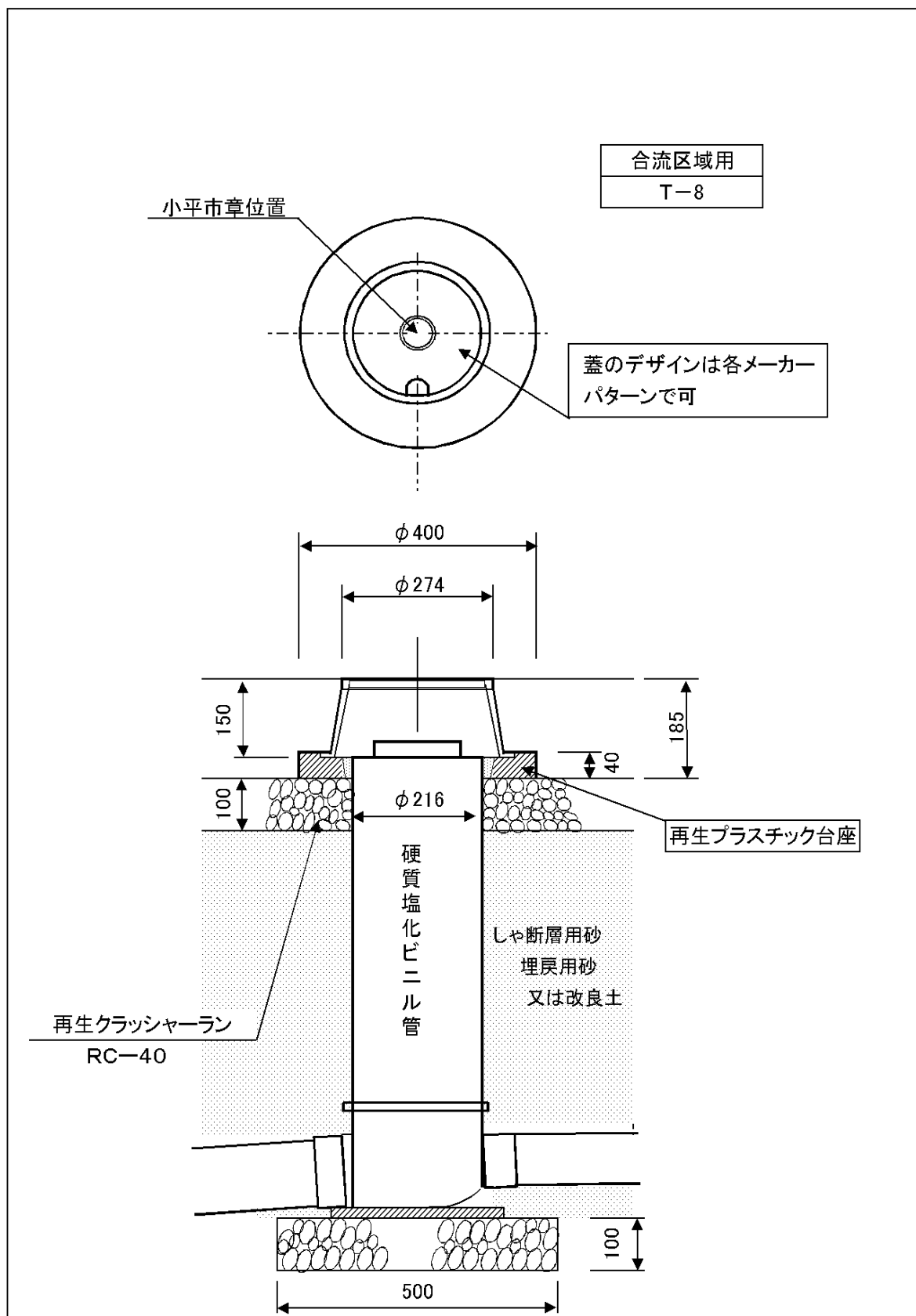
しゃ断層用砂、埋戻し用砂または改良土

取付管

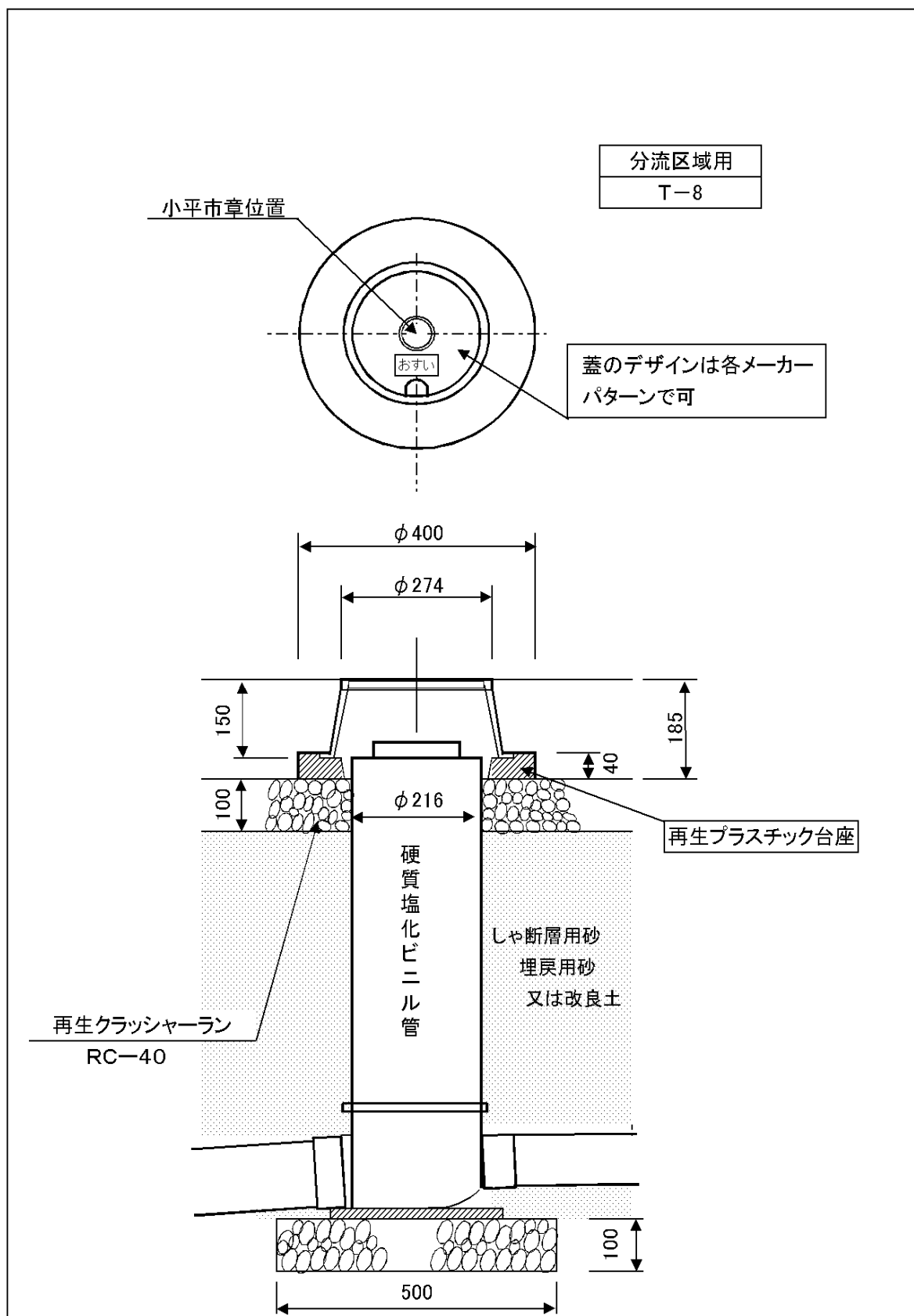
横断面図



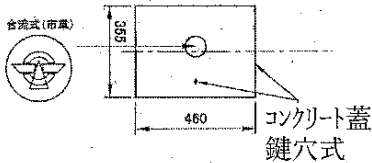
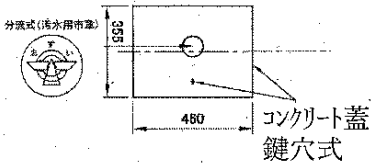
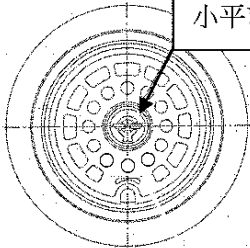
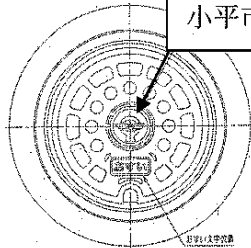
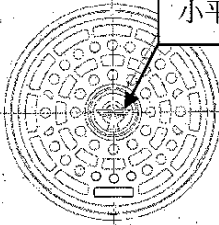
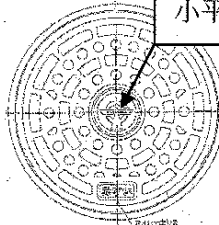
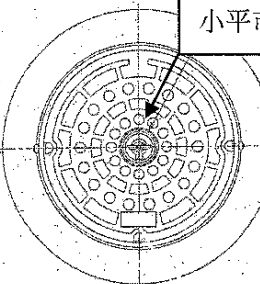
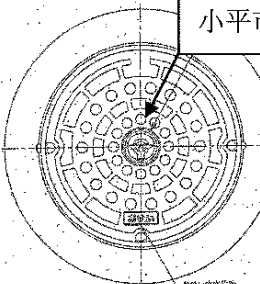
防護蓋標準施工図(合流区域用)



防護蓋標準施工図(分流区域用)



公ます蓋の標準デザイン

ます種類		合流区域	分流区域
宅地内ます	Ⅰ形用 $\Phi 200$	 合流式(市章) コンクリート蓋 鍵穴式	 分流式(汚水用市章) コンクリート蓋 鍵穴式
	$\Phi 200$ 塩ビ		
	$\Phi 200$ 防護蓋		
	$\Phi 300$ 塩ビ		
	$\Phi 300$ 防護蓋		
	$\Phi 700$ 、 750 、 900		